

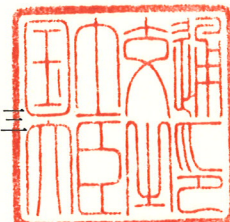


認定書

国住指第 1964 号
平成 19 年 9 月 28 日

株式会社ダイサン
代表取締役 峠元 幹也 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0067
2. 認定をした構造方法等の名称
ビーズ法ポリスチレンフォーム充てん／鉄筋コンクリート造床
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

ビーズ法ポリスチレンフォーム充てん／鉄筋コンクリート造床

2. 寸法

床の各辺の長さについては、構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする。

3. 材料構成等

項	目	製 品 仕 様 等
床板	コンクリート (普通コンクリート)	床板の厚さ (mm) 225・250・275・300・325・350+5,-2 圧縮強度 (N/mm ²) 24 ~ 36 (材令 28 日) 気乾単位容積質量 (g/cm ³) 2.3 ± 0.1 配合 (kg/m ³) セメント 202 ~ 321 細骨材 (砕砂、山砂、川砂等) 328 ~ 852 粗骨材 (砕石、山砂利、川砂利等) 342 ~ 930 混和材 (AE 剤、減水剤、AE 減水剤等) 2.5 ~ 3.9 水 (清水等) 170 ~ 183 セメントの種類 ・ポルトランドセメント (JIS R 5210) ・高炉セメント (JIS R 5211) ・シリカセメント (JIS R 5212) ・フライアッシュセメント (JIS R 5213) 水セメント比 (%) 57.0 以下 スランプ (mm) 圧縮強度が 24N/mm ² 以上 ~ 33N/mm ² 未満の場合 : 180 以下 圧縮強度が 33N/mm ² 以上 ~ 36N/mm ² 以下の場合 : 210 以下 粗骨材の寸法 (mm) 20 以下 細骨材率 (%) 40 ~ 50 空気量 (%) 4.5 ± 1.5
	ビーズ法ポリスチレンフォーム (ポイド)	形状 直方体 高さ (mm) 133・158・183・208・233・258 ± 2.0 大きさ (mm) 190 × 190 (± 2.0) かさ比重 0.015 ± 0.0015 組成 (mass %) ポリスチレン系樹脂 94 ± 5.0 発泡剤 5 ± 0.5 難燃薬剤 (臭素化脂環族系) 1 ± 0.1

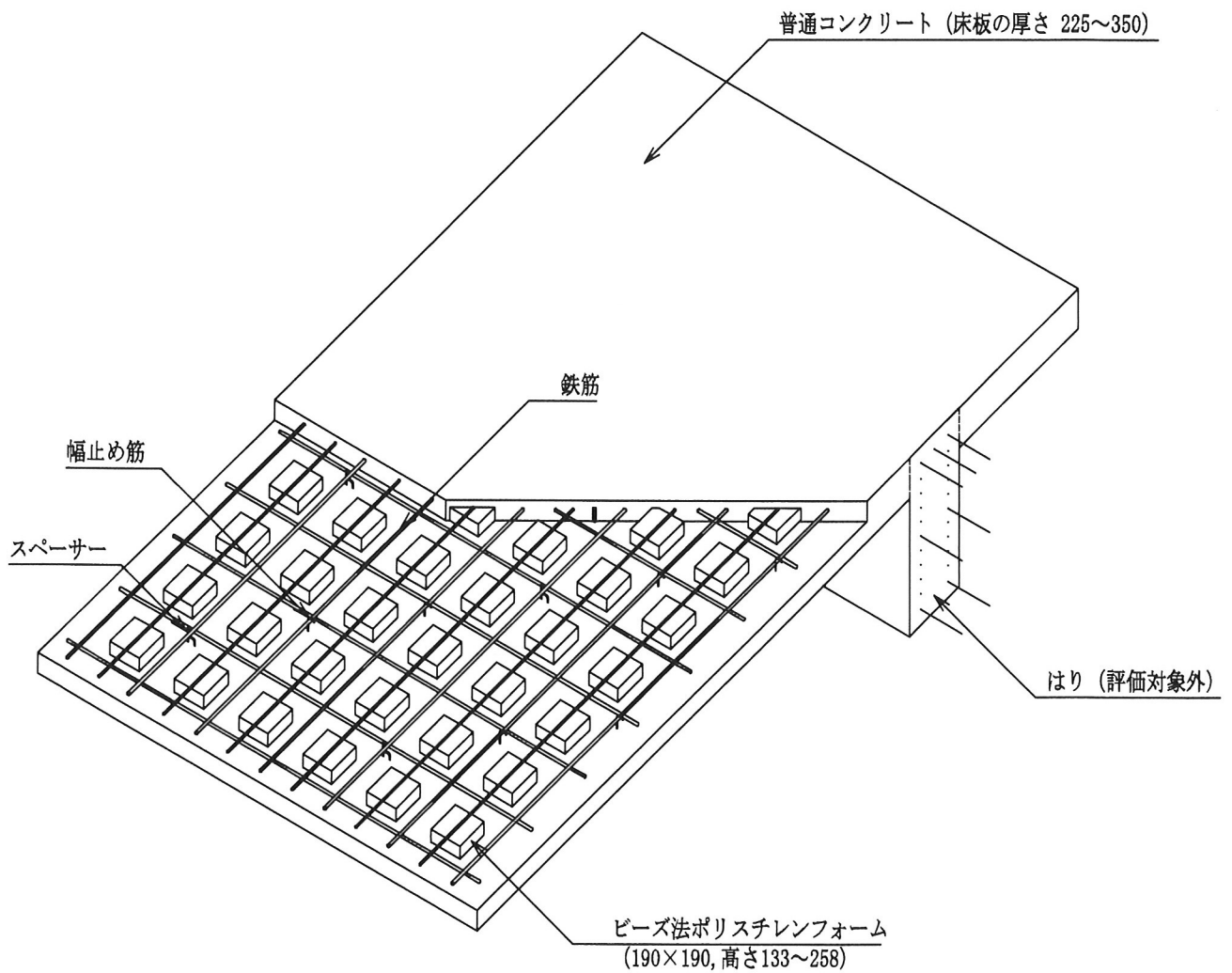
項 目		製 品 仕 様 等																							
床板	鉄筋	材料名及び規格 鉄筋コンクリート用棒鋼 (JIS G 3112 (SD295A)) 直径 (mm) 主筋① (下端筋及び上端筋) : D16 以上 主筋② (下端筋及び上端筋) : D13 以上 配力筋① (下端筋及び上端筋) : D16 以上 配力筋② (下端筋及び上端筋) : D13 以上 乗せ筋 : D10 ± 0.4 押え筋 : D10 ± 0.4 幅止め筋 : D10 以上 間隔 (mm) 又は本数 主筋①及び配力筋① (下端筋及び上端筋) : 900 ± 5 主筋②及び配力筋② (下端筋及び上端筋) : 300 ± 5 乗せ筋 : 2 本 (下端主筋相互の間) 押え筋 : 1 本 (上端主筋相互の間) 幅止め筋 : 2 本以上 (0.81 m ² 当たり) かぶり厚さ (mm) 35+2,-0																							
	スペーサー	材料名及び規格 軟鋼線材 (JIS G 3505) 高さ (mm) 180・205・230・255・280・305+0,-2 線径 (mm) 6 ± 0.5																							
	アンカー	種類 ポリプロピレン系樹脂 高さ (mm) 40 ± 2 大きさ (mm) 60 × 70 (± 1)																							
床板の厚さとビーズ法ポリスチレンフォーム等の組み合わせ		<table border="1"> <thead> <tr> <th>床板の厚さ (mm)</th> <th>ビーズ法ポリスチレンフォームの高さ (mm)</th> <th>スペーサーの高さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>225</td> <td>133</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>250</td> <td>158</td> <td>205</td> </tr> <tr> <td>275</td> <td>183</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td>300</td> <td>208</td> <td>255</td> </tr> <tr> <td>325</td> <td>233</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>350</td> <td>258</td> <td>305</td> </tr> </tbody> </table>			床板の厚さ (mm)	ビーズ法ポリスチレンフォームの高さ (mm)	スペーサーの高さ (mm)	225	133	180	250	158	205	275	183	230	300	208	255	325	233	280	350	258	305
床板の厚さ (mm)	ビーズ法ポリスチレンフォームの高さ (mm)	スペーサーの高さ (mm)																							
225	133	180																							
250	158	205																							
275	183	230																							
300	208	255																							
325	233	280																							
350	258	305																							

項 目	製 品 仕 様 等
施工方法	
型枠の敷設	割付け図、配筋図等に基づき、コンクリート型枠用合板等の型枠を支保工上に敷設する。
アンカーの取付け	墨出し後、アンカーを取付けるための穴をドリル等で型枠に開ける。アンカーボルトを 900 mm (X 方向及び Y 方向) の間隔で穴に打込み、これにアンカーを取付ける。
下端筋の敷設	下端筋は、下記の手順で敷設する。 ① D16 以上の主筋と D16 以上の配力筋をそれぞれ 900 mm の間隔でアンカーの上に敷設する。 ② 予め配置していた D13 以上の主筋と、D13 以上の配力筋をそれぞれ 300 mm の間隔で敷設する。 ③ D10 の乗せ筋を 100 mm の間隔で主筋相互の間に 2 本ずつ敷設する。
スペーサーの取付け	スペーサーをアンカーに差し込んで固定する。
上端筋の敷設	上端筋は、下記の手順で敷設する。 ① D16 以上の配力筋と D16 以上の主筋をそれぞれ 900 mm の間隔でスペーサーの上に敷設する。 ② 予め配置していた D13 以上の配力筋と、D13 以上の主筋をそれぞれ 300 mm の間隔で敷設する。 ③ D13 以上の上端主筋と下端主筋を D10 以上の幅止め筋 (0.81 m ² 当たり 2 本以上) で結束する。
ビーズ法ポリスチレンフォームの敷設	ビーズ法ポリスチレンフォーム (以下、ポイドという) を、鉄筋格子の中央に位置するように、下端乗せ筋の上に配置する。ポイドを固定するための D10 の押え筋を 1 本ずつ上端主筋相互の中央に配置し、上端配力筋に敷設する。
コンクリートの打設	コンクリートの打設は、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠し、ポイドの浮き上がりや移動が生じないことを管理しながら行う。また、コンクリートは、かぶり厚さ不足が生じることのないように、かつ、所定厚さを確保するように不陸なく打込む。
アンカーボルトの取外し	型枠下に突出したアンカーボルトをレンチ等で取外す。
コンクリートの養生	コンクリートの養生は、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。
型枠等の撤去	コンクリート養生後、型枠、支保工の撤去を行う。

4. 構造説明図

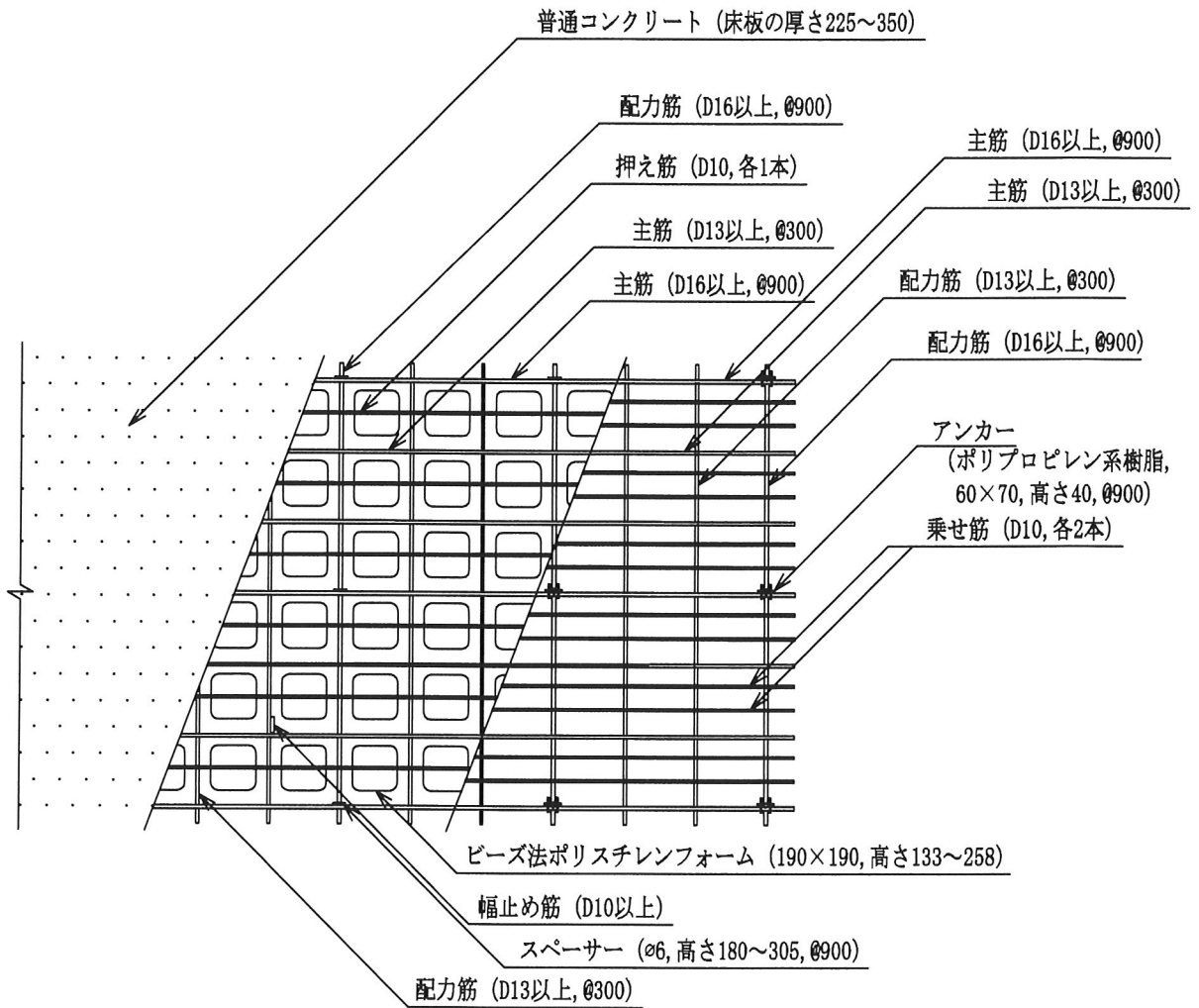
(1) 透視図

(単位 mm)



(2) 平面図

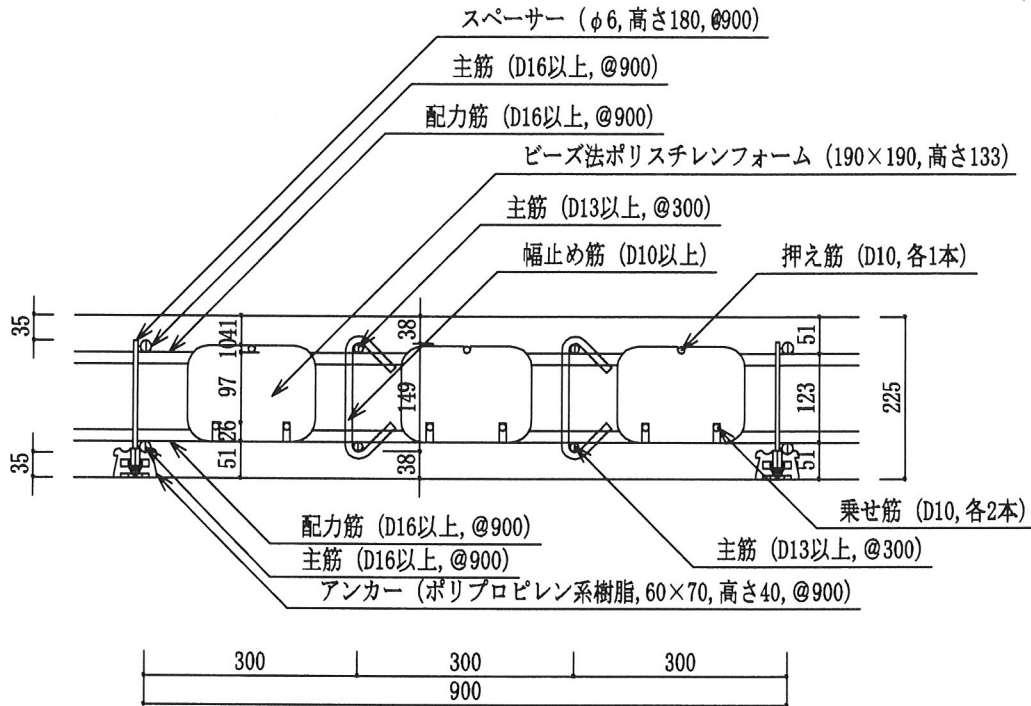
(単位 mm)



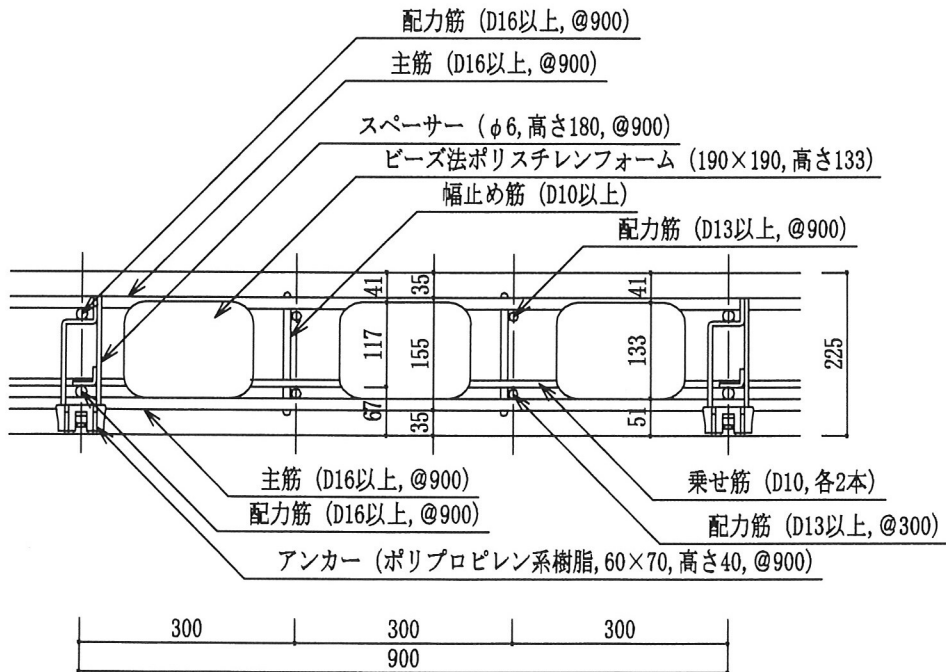
(3) 断面詳細図

①床板の厚さが225mmの場合

(単位 mm)



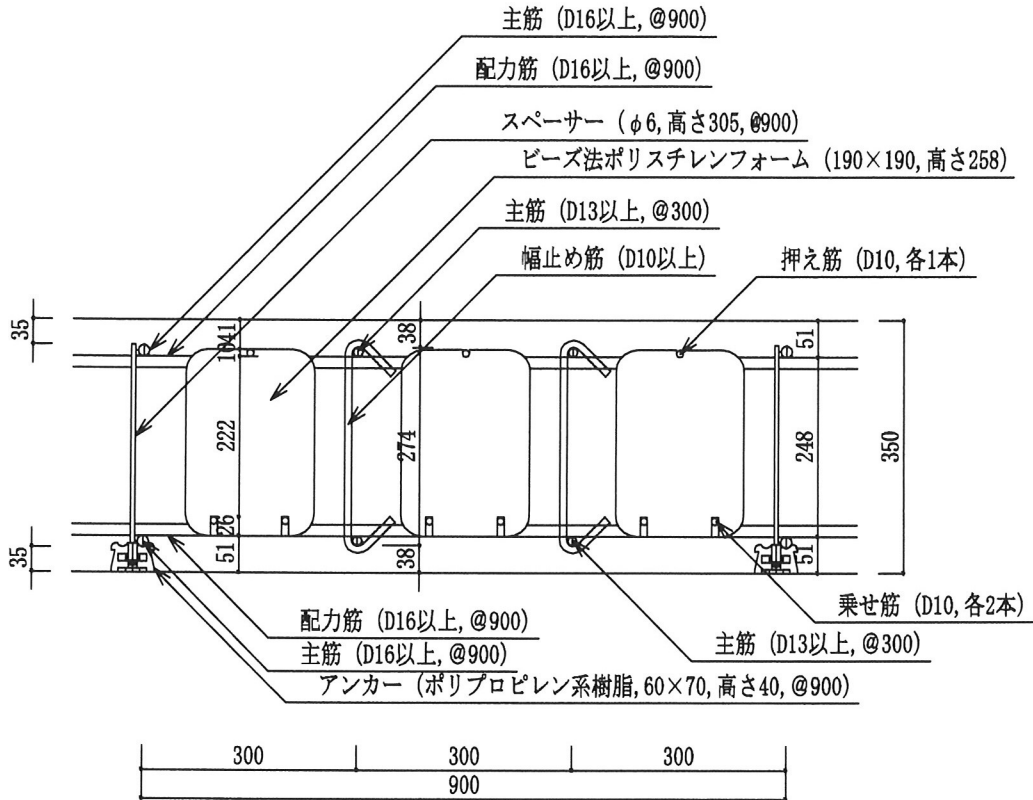
〔主筋直行方向〕



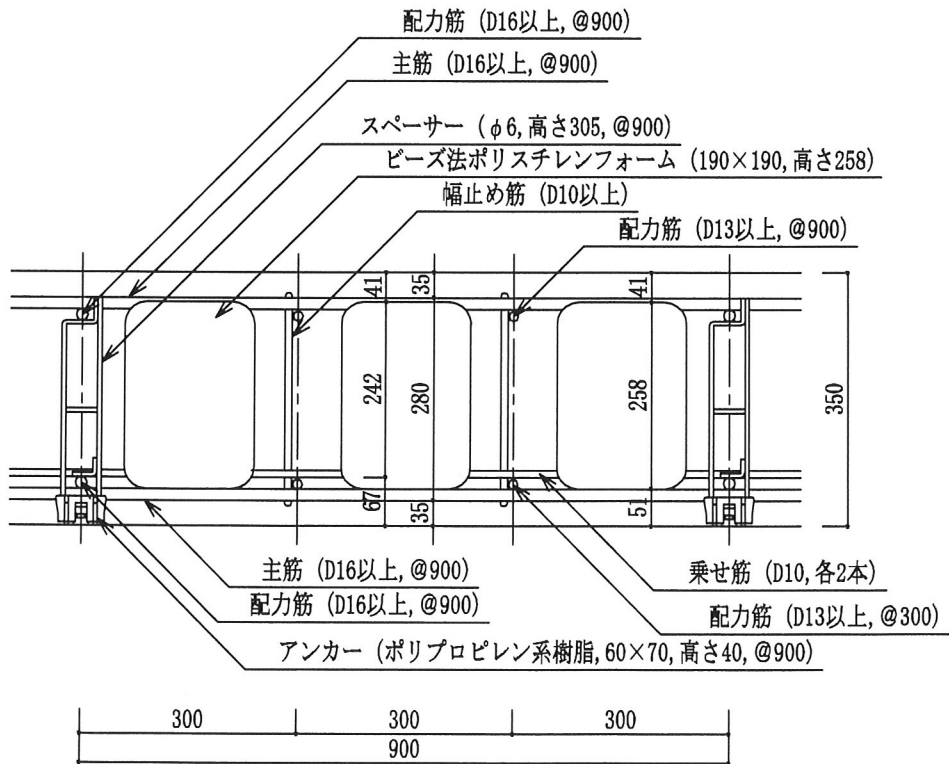
〔配力筋直行方向〕

②床板の厚さが350mmの場合

(単位 mm)



[主筋直行方向]

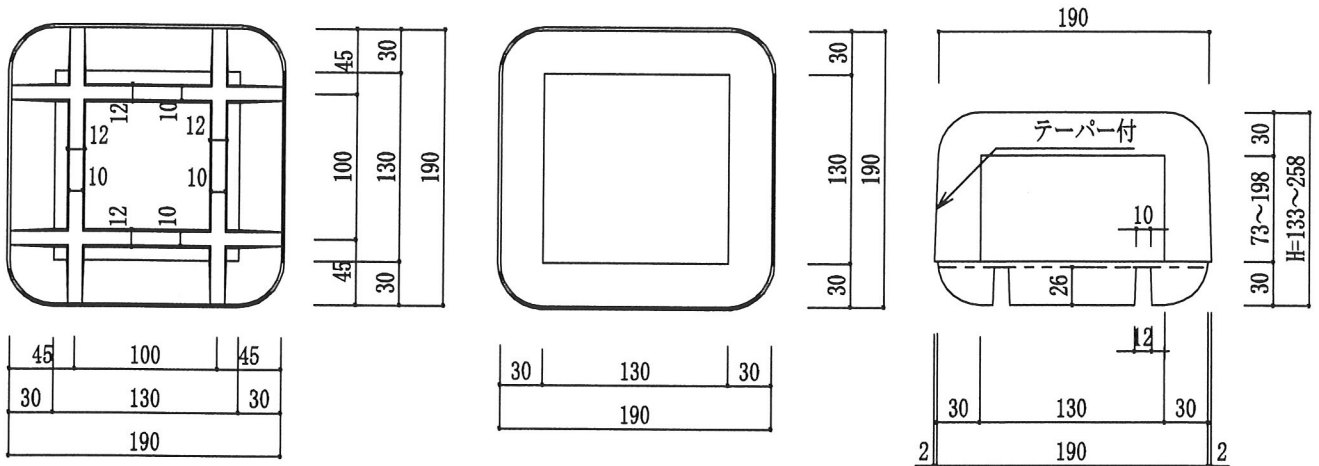


[配力筋直行方向]

(4) ビーズ法ポリスチレンフォーム等詳細図

① ビーズ法ポリスチレンフォーム詳細図

(単位 mm)



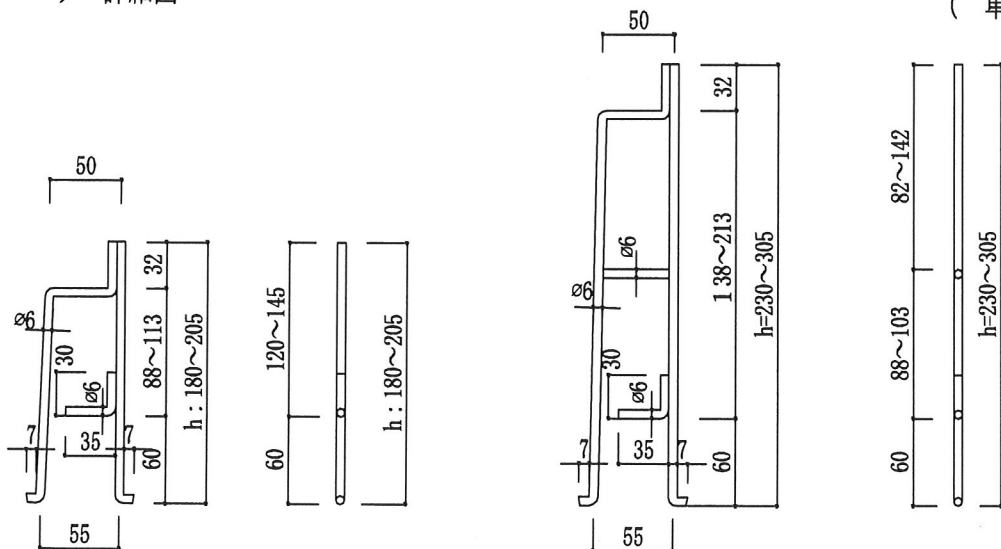
底面図

上面図

側面図

② スパースー詳細図

(単位 mm)



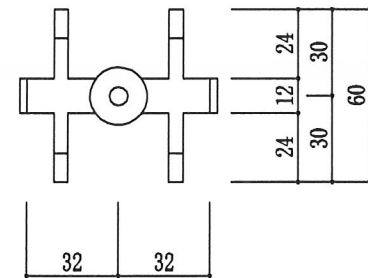
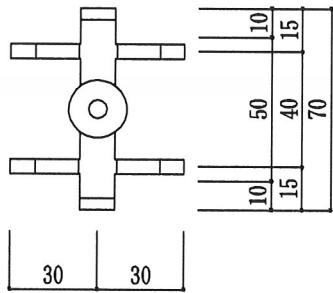
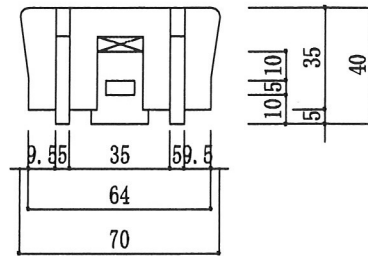
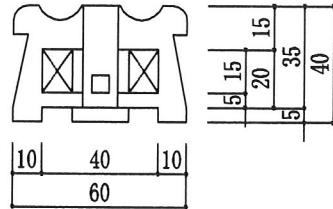
③ 床板の厚さとビーズ法ポリスチレンフォーム等の組み合わせ表

(単位 mm)

床板の厚さ	ビーズ法ポリスチレンフォームの高さ (H)	スパースーの高さ (h)
225	133	180
250	158	205
275	183	230
300	208	255
315	233	280
350	258	305

④アンカー詳細図 (ポリプロピレン系樹脂)

(単位 mm)



[正面及び底面図]

[側面及び底面図]

5. 施工方法

(1) 型枠の敷設

割付け図、配筋図等に基づき、コンクリート型枠用合板等の型枠を支保工上に敷設する。

(2) アンカーの取付け

墨出し後、アンカーを取付けるための穴をドリル等で型枠に開ける。アンカーボルトを 900 mm (X 方向及び Y 方向) の間隔で穴に打込み、これにアンカーを取付ける。

(3) 下端筋の敷設

下端筋は、下記の手順で敷設する。

① D16 以上の主筋と D16 以上の配力筋をそれぞれ 900 mm の間隔でアンカーの上に敷設する。

② 予め配置していた D13 以上の主筋と、D13 以上の配力筋をそれぞれ 300 mm の間隔で敷設する。

③ D10 の乗せ筋を 100 mm の間隔で主筋相互の間に 2 本ずつ敷設する。

(4) スペースの取付け

スペースをアンカーに差し込んで固定する。

(5) 上端筋の敷設

上端筋は、下記の手順で敷設する。

① D16 以上の配力筋と D16 以上の主筋をそれぞれ 900 mm の間隔でスペースの上に敷設する。

② 予め配置していた D13 以上の配力筋と、D13 以上の主筋をそれぞれ 300 mm の間隔で敷設する。

③ D13 以上の上端主筋と下端主筋を D10 以上の幅止め筋 (0.81 m²あたり 2 本以上) で結束する。

(6) ビーズ法ポリスチレンフォームの敷設

ビーズ法ポリスチレンフォーム (以下、ボイドという) を、鉄筋格子の中央に位置するように、下端乗せ筋の上に配置する。

ボイドを固定するための D10 の押え筋を 1 本ずつ上端主筋相互の中央に配置し、上端配力筋に敷設する。

(7) コンクリートの打設

コンクリートの打設は、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠し、ボイドの浮き上がりや移動が生じないことを管理しながら行う。また、コンクリートは、かぶり厚さ不足が生じることのないように、かつ、所定厚さを確保するように不陸なく打込む。

(8) アンカーボルトの取外し

型枠下に突出したアンカーボルトをレンチ等で取外す。

(9) コンクリートの養生

コンクリートの養生は、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。

(10) 型枠等の撤去

コンクリート養生後、型枠、支保工の撤去を行う。